

0. 事業運営



村でのベースライン調査の様子。合計 6 タウンシップ 265 村において、聴き取り調査を実施した。



RH ボランティアが啓発セッションで利用するフリップチャート（妊産婦、新生児、出生間隔の 3 種）を調達した。

1. ボランティアによるコミュニティ・ベースの保健栄養の教育



村での保健栄養啓発セッションの様子。第 1 期事業対象村では、育成されたボランティア主導の下、合計 6 タウンシップ 300 村において、月 1 回開催された。



セッションには、妊産婦、母親や保護者、子どものケアに影響力のある村のリーダー、父親、祖父母などの地域住民が参加した。



啓発セッションでは、乳幼児の適切な食生活、栄養不良などをテーマとし、育成した保健ボランティアが中心的な役割を果たしている。



第 1 期事業対象村では、主要な小児感染症の危険徴候について、視聴覚教材を用いた啓発セッションを開催した。（赤いスカートをはいた女性は助産師）



第1期事業対象村にて、RH ボランティアによる家庭訪問の様子。母子手帳、おくるみや安全なお産キットを提供した。

2. コミュニティでの疾病予防と母子保健ケアの提供



新生児ケア研修の様子。ボランティアは、安全なお産、母乳・補助食の栄養指導や継続ケアの重要性などについて学んだ。



新生児ケア研修と妊産婦ケア研修を通して、第2期事業対象村にて515人のRH ボランティアが育成された。



ケースマネジメント研修の様子。研修を通して、第2期事業対象村ではこれまでに171人のCCMPが育成された。



ケースマネジメント研修では、下痢や肺炎など一般的な小児疾患の対処方法や栄養指導などの家庭での疾病予防とケアを取り扱った。

3. 医療専門家との連携による保健システムの強化



現地保健当局と連携し、現時点で合計 15 人の助産師に対し、緊急産科ケア、新生児ケア、母乳・補助食の栄養指導に関する 10 日間の研修を実施した。今後順次、実施していく。



補助助産師研修生に対する研修の様子。5 タウンシップから 95 名の候補生を選定した。



1 タウンシップにて 15 名の補助助産師候補生が 5 月より 6 か月間の研修を開始している。

4. コミュニティでのケアの質の向上と定着



当該事業の全ての対象村においてアドボカシー会合を開催し、事業目的と活動、地域住民の参加の重要性を説明した。



村長や 5 歳未満の子どもを持つ母親を含む、合計 10,591 名がアドボカシー会合に参加した。



村の保健栄養チームの能力を向上させるため、1タウンシップのメンバーに対して、リーダーシップ、マネジメントに関するワークショップを実施した。今後順次、コミュニティ・アクション・プランなどの研修も、他のタウンシップも含めて実施していく。



ボランティアと助産師の月次指導ミーティングの様子。